BORDERLESS と私

自分の将来を見つめる

A-2 村上　佳穂（むらかみ　かほ）

1　紹介文

私にとって大切なコニュニティは BORDERLESS というサークルである。このサークルは国籍を問わず、多くの人と様々な交流を通して相互理解を図る、いわば仲良くなるための集まりではないかと私は考えている。このサークルが私にとって大切である大きな理由として私の人生への影響力の強さを上げる。このサークルの出会いが私の世界観を変えてくれたといっても過言ではない。

私とサークルの出会いは大学に入学して間もなくであった。留学生とランチといったイベントがあり、そこで出会った留学生の紹介のもと、サークルのメンバーとなった。そこからサークルでは、バーベキュー、ピクニック、パーティーなど今日まで様々なことをしてきた。これまで自国の事しか知らなかった私にとってこのような行事を通して様々な国の方と交流し、仲良くなれたことはとても楽しく、刺激的で学ぶことが多かった。私の専攻は作業療法士になるためだけの専攻であって BORDERLESS の方々と出会うまでは日本での就職しか考えていなかったが、他の国の文化に触れたことにより他の国にも興味が湧いてきて、将来作業療法士として国外で働くことにも目が向くようになった．例えば、日本と海外の作業療法の違いにも興味を持つようになり、患者とその家族が主体となる日本のリハビリの生活と、患者と作業療法士が主体となっている、といった差異にも前より意識が向くようになった。

このようなサークルと多くの国の人々との出会いによりこれまでうちに向けられていた視線が世界に移り、将来の職の選択肢が広まったのではないかと思う。したがって私の人生の在り方を考えさせてくれた BORDERLESS サークルこそ私にとって大切のコミュニティではないかと考える。

2　インタビュー相手

インタビュー相手：サークル内の留学生、同じ医学部保健学科で一緒にサークルに参加している日本人の友人

役割　　：共に特に決まった役割はなく、活動を共にしている程度

印象深かったこと：留学生の国の話を聞くことができたことや一緒に活動できたこと

インタビューしたい理由：サークルの留学生→私自身は日本人以外の方と触れ合ったことで上記のような感情を抱いたが、逆の立場の留学生はどのような

事を思ったのか気になったため

同学科の日本人→私と同じ立場にある友人はこのサークルを通して何を考え、自分自身に何か変化はあったか疑問におもったため

3　インタビューの結果

インタビューは日本人の友人 2 人に行った。場所は秋田大学のアメニティー。医学部保健学科の友人と教育文化学部国際教養課程の友人に対しそれぞれ行った。友人 1 人に対しインタビュー時間は 30 分程度行った。

インタビュー相手にとってのコミュニティ

今回のインタビューを通して、私がこのコミュニティに対して抱いていた感情と友達が抱いていた感情が微妙に違っていて面白いなと思った。私にとってこのコミュニティは自分の将来へ深く影響をおよぼすものであったが、友達にとってはそういった思いではなく、外国の方に対してのコミュニケーション能力が向上できる場所としての捉え方が大体を占めているようであった。

一人目のインタビュー相手として同じ学年、同じ学科の人であり、よくそのサークルで行動を共にしている友人に声をかけた。インタビューの中で印象に残っている出来事をうかがったところ送別会で留学生に半ば強引に『会場にいる人みんなに声をかけてきなさい』と友達を作るように勧められたことだそうだ。私とその友達とはいつももう一人の友達を含め 3 人で行動することが多くサークルのパーティーでも初めのころは 3 人で話すことが多かった。そんな私たちの様子をいつも気にしてくれていた留学生の人が送別会の時、私たちをいろんな人に紹介してくれたことが強く思い出として残っているようだ。そのような出来事があってからというもの教訓となり、今ではより積極的にいろんな人に話しかけることができているとも言っていた。その変化は私自身も感じており、確かに自分自身の成長につながると感じた。英語を話すことに格別な自信もなく、留学生の人に声をかけることを怖がっていた入学当初の私たちの事を思い出し、叱ってくれたあの留学生に対し感謝の思いと、懐かしさで少し話が膨らんだ。

また、もう一人のインタビュー相手として、同学年、育文化学部国際教養課程の友人に声をかけてみた。国際の生徒の人だと私たち保健学科とはまた違って日本語以外の言語がより大切になってくると考えられ、このサークルにたいしての感じ方も違うのではないかと考えたからである。ここで、一人目の人と同様な質問をしてみたところ英会話をとおして英語能力の向上も図られたがそれだけでなくいろんな文化・環境にとびこんでいけるようになった、どの視点から見ても自分自身に自信がついたといった回答が得られた。

この両者に共通して言えることはサークルを通して以前の自分より成長できたということ、日本の人と普段の生活で話したり、遊んだりするだけではなかなか得ることのできない刺激・影響を受けているといことがあげられると思う。私が感じた自分自身の将来に対しての影響といったことは二人からあげられなかったが以上にあげた項目は私も確かに感

じたことであった。このような同じような意識を持った友人がサークル内にいて、安心したというか心強い感じがした。インタビュー最中「このサークルなしは考えられない」と友人は話していたが私も同じ気持ちだなと思った。

4　BORDERLESS と私

今回のインタビューを通して感じたことは、BORDERLESS サークル・留学生との交流を通してこれまでの生活にはなかった刺激を受けていたということが大きくしめていたということである。またその刺激のおかげで、自分自身に自信がついたり、あらたな価値観を得られたという意見がえられ、その点に対して私も深く共感できた。やはり留学生と交流するといったこれまでの生活になかったことが印象として深く根付いているのだと感じた。私自身もサークルの事ついて思い出してみるときに上記のような内容を真っ先に思い出した。そこでインタビューを行う以前から上記のような回答がでてくるのでないかと予測をしていた。一方で私の予測外だったことは私が感じたような『将来につながってくる感情』が友人 2 人からあまり得られなかったことである。私は留学生と話していてその留学生の背景に母国が見え隠れしているような気がして、『行ってみたい、その国で仕事をしてみたら面白そうだな』と感じてみたりして、そんな気持ちになれた会話が楽しかったが、友人はそのような感情はなかったようでここで私自身の独特なサークルへの感じ方に気づかされた。

インタビューを通して気づかされたことを踏まえ、『これからにどんな風に生きていきたいか』という問いに対して、この 1 年近くで私の日常生活に新たにできた留学生との交流という出来事をこれからも大切にし続けると共に、私が感じた独特の感情を将来まで大切にし続けようと思った。また『コニュニティをこれからどんな風にしていきたいか』という問いに対しては、これまで通りたくさんの交流ができ、刺激的なもののままであるようにしていきたいとともに私が感じたように将来まで考えさせられたと感じる人が増えるように何か活動できないかと考えている。

5　クラスについての感想

この授業を取り、最初の方で『コニュニティとは』と問われ、いきなり難しい問題を言い渡されたと感じた。しかし、今思い返してみるとこれまでの生活の中でコニュニティについてなんて考えたこともなかったし、コニュニティがあることが当たり前のことであると感じていたので、この講義を取っていなかったらこんなにもコニュニティについてふれることもなかったなと感じていている。

授業としては、これまでやってきたような形式も大変良かったが、クラス全体となった取り組みがもっとあったらいいなと個人的に感じた。